

# 漢文『諸子百家』100題ドリル 問題編

無料ダウンロード（縦書き・印刷可）

このドリルは、解説記事「漢文『諸子百家』」で学んだ人物・学派・思想・著作を、一問一答で確実に覚え直すためのものです。諸子百家は、春秋・戦国時代の乱世に生まれた多くの思想家・学派をまとめて呼ぶ言葉で、入試漢文でも頻出します。やり方は簡単です。各問の説明を読んだら、まず自分で答えを思い浮かべ、それから下の「答え」を見て確認してください。前半は人物と学派、中盤は思想を表すことば、後半は著作・名句・時代背景の順に並んでいます。全100問、くり返し解いて知識を定着させましょう。

- Q1. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。春秋時代の魯の国に生まれ、「仁」と「礼」を説いて儒家の祖となった思想家。
- Q2. 次の説明にあてはまる学派を答えよ。孔子を祖とし、仁・礼・徳による政治や道徳を重んじた、諸子百家の中心的な学派。
- Q3. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。孔子の死後にその思想を受けつぎ、人は生まれつき善であるとする「性善説」を唱えた儒家。
- Q4. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。同じ儒家でありながら、人の生まれつきの性質を悪とし、「性悪説」を唱えた思想家。
- Q5. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。「道」に従い、人為を捨てて自然のままに生きる「無為自然」を説いた道家の祖とされる思想家。
- Q6. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。老子の思想を受けつぎ、「万物斉同」や「逍遙遊」を説いた、道家を代表するもう一人の思想家。
- Q7. 次の説明にあてはまる学派を答えよ。老子・荘子を中心とし、「道」と「無為自然」を重んじた学派。
- Q8. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。法・術・勢を説き、法家の思想を大成した戦国末期の思想家。
- Q9. 次の説明にあてはまる学派を答えよ。道徳ではなく、君主が定めた「法」によって国を治めることを説いた、現実主義的な学派。
- Q10. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。「兼愛」と「非攻」を説き、無差別の愛と戦争反対を主張した学派の祖。

- Q11. 次の説明にあてはまる学派を答えよ。墨子を祖とし、兼愛・非攻を掲げて、血縁を超えた平等の愛を説いた学派。
- Q12. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。兵法（戦争の理論）を説いた兵家の代表で、その名を冠した兵法書で知られる人物。
- Q13. 次の説明にあてはまる学派を答えよ。戦争や軍事の理論を専門に説いた、孫子・呉子らに代表される学派。
- Q14. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。「白馬は馬に非ず（白馬非馬）」という論で知られる、名家を代表する人物。
- Q15. 次の説明にあてはまる学派を答えよ。ことばと実体の関係や論理を論じた、公孫竜・恵施に代表される学派。
- Q16. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。六国が南北に同盟して強国の秦に対抗する「合従」を説いた、縦横家の策士。
- Q17. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。蘇秦と同門でありながら、各国が個別に秦と結ぶ「連衡」を説いた縦横家。
- Q18. 次の説明にあてはまる学派を答えよ。諸国間の外交・同盟のかけひきを説いた、蘇秦・張儀に代表される学派。
- Q19. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。陰陽五行の思想を体系化し、「五徳終始説」によって王朝交替を説いた陰陽家。
- Q20. 次の説明にあてはまる学派を答えよ。陰陽と五行の考えによって自然や人間の運命を説明しようとした、鄒衍に代表される学派。
- Q21. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。農業こそ国の根本とし、君主も民とともに耕すべきだと説いた農家の思想家。
- Q22. 次の説明にあてはまる学派を答えよ。農業を重んじ、農耕による平等な社会を理想とした、許行に代表される学派。
- Q23. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。秦の大商人から宰相となり、多くの学者を集めて『呂氏春秋』を編ませた人物。
- Q24. 次の説明にあてはまる学派を答えよ。特定の一説にかたよらず、諸学派の長所を幅広く取り入れた、呂不韋に代表される学派。

- Q25. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。秦の孝公に仕えて厳しい法による改革（変法）を進め、後の秦の強大化の基礎を築いた法家。
- Q26. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。荀子に学び、後に秦の始皇帝の宰相として統一事業を支えた法家の政治家。
- Q27. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。名家に属し、「天と地は同じ高さ」など多くの逆説的な命題を唱えた、公孫竜と並ぶ論客。
- Q28. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。兵家に属し、魏や楚に仕えて軍事と政治の改革を行い、その名の兵法書を残した人物。
- Q29. 次の説明にあてはまることを答えよ。春秋・戦国時代に現れた、多くの思想家や学派をまとめて呼ぶ言葉。
- Q30. 次の説明にあてはまる時代を答えよ。諸子百家が活躍した、戦乱が続き各国が富国強兵を競った時代の総称。
- Q31. 次の説明にあてはまることを答えよ。孔子が説いた、人を思いやる心であり、儒家の根本となる徳。
- Q32. 次の説明にあてはまることを答えよ。仁が外に表れた形であり、社会の秩序を保つための礼儀・作法・きまり。
- Q33. 次の説明にあてはまる説を答えよ。孟子が唱えた、人は生まれながらに善の心を持つとする考え方。
- Q34. 次の説明にあてはまる説を答えよ。荀子が唱えた、人の生まれつきの性質は悪であり、教育によって正すべきだとする考え方。
- Q35. 次の説明にあてはまることを答えよ。孟子が説いた、人の心に生まれつき備わる四つの善の芽。惻隠・羞悪・辞讓・是非の心の総称。
- Q36. 次の説明にあてはまることを答えよ。他人の不幸を見過ごせない、あわれみ・いたみの心。四端のうち「仁」の芽とされる。
- Q37. 次の説明にあてはまることを答えよ。自分や他人の不善・不正を恥じ、悪を憎む心。四端のうち「義」の芽とされる。
- Q38. 次の説明にあてはまることを答えよ。他人にへりくだり、ゆずろうとする心。四端のうち「礼」の芽とされる。

- Q39. 次の説明にあてはまることを答えよ。物事の善悪・正不正を見分ける心。四端のうち「智」の芽とされる。
- Q40. 次の説明にあてはまることを答えよ。四端が育ってそなわる、仁・義・礼・智という四つの徳の総称。
- Q41. 次の説明にあてはまることを答えよ。孟子が理想とした、仁義にもとづいて民のために行う政治。
- Q42. 次の説明にあてはまることを答えよ。王道に対し、武力や権謀によって人々を従わせる政治。
- Q43. 次の説明にあてはまることを答えよ。君主が民の支持を失えば天命が改まり、王朝の姓が替わるという、孟子も説いた思想。
- Q44. 次の説明にあてはまることを答えよ。老子・荘子の思想の根本にある、宇宙や万物を生み出すおおもとの原理。
- Q45. 次の説明にあてはまることを答えよ。老子が説いた、人為をやめて自然のままに生きるという生き方。
- Q46. 次の説明にあてはまることを答えよ。荘子が説いた、すべての物事の区別や差別は人が作ったもので、本来はみな等しいとする考え。
- Q47. 次の説明にあてはまることを答えよ。荘子が理想とした、何ものにもとらわれず、自由にのびのびと遊ぶような境地。
- Q48. 次の説明にあてはまる説話・ことばを答えよ。荘子が夢で蝶になり、夢と現実、自分と蝶の区別があいまいになったという、万物斉同を表す寓話。
- Q49. 次の説明にあてはまることを答えよ。墨子が説いた、自他の区別なく、すべての人を平等に愛するという思想。
- Q50. 次の説明にあてはまることを答えよ。墨子が説いた、他国への侵略戦争に反対する思想。
- Q51. 次の説明にあてはまることを答えよ。墨子が説いた、家がらにとらわれず、有能な人物を登用すべきだとする考え。
- Q52. 次の説明にあてはまることを答えよ。墨子が説いた、むだをはぶき、費用を節約すべきだとする儉約の思想。

- Q53. 次の説明にあてはまることを答えよ。韓非子ら法家が重んじた、君主が定め、賞罰の基準となる客観的なきまり。
- Q54. 次の説明にあてはまることを答えよ。韓非子が説いた、君主が臣下を見抜き、使いこなすための統治のわざ・手腕。
- Q55. 次の説明にあてはまることを答えよ。韓非子が説いた、君主が臣下を従わせるためにもつべき権力・威勢。
- Q56. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。「仁・義・礼・智」の四徳をそなえた、儒家が理想とする完成された人格。
- Q57. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。「法・術・勢」を説き、君主の絶対的な権力による統治を理論づけた人物。
- Q58. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。「性善説」「四端」「王道」「易姓革命」などを説いた儒家の思想家。
- Q59. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。「性悪説」を唱え、「礼」による教育で人を正すべきだと説いた儒家の思想家。
- Q60. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。「兼愛」「非攻」「尚賢」「節用」を掲げた学派の祖。
- Q61. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。「無為自然」を説き、「道」をすべての根源とした道家の祖。
- Q62. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。「万物斉同」「逍遥遊」「胡蝶の夢」で知られる道家の思想家。
- Q63. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。「合従」を説いて六国を同盟させ、強国の秦に対抗させた縦横家。
- Q64. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。「連衡」を説き、六国を個別に秦と結びさせて合従をくずした縦横家。
- Q65. 次の説明にあてはまることを答えよ。蘇秦が説いた、六国が南北に同盟して秦に対抗する外交策。
- Q66. 次の説明にあてはまることを答えよ。張儀が説いた、六国が個別に秦と同盟を結ぶ外交策。

- Q67. 次の説明にあてはまることばを答えよ。公孫竜が唱えた、「白い馬は馬ではない」という、名家を代表する逆説的な命題。
- Q68. 次の説明にあてはまる著作を答えよ。孔子の言行や弟子との問答を、弟子たちがまとめた儒家の最も基本的な書物。
- Q69. 次の説明にあてはまる著作を答えよ。孟子の言行や思想を伝える書物で、性善説や王道政治が説かれている。
- Q70. 次の説明にあてはまる著作を答えよ。荀子の思想を伝える書物で、性悪説や「礼」の重要性が説かれている。
- Q71. 次の説明にあてはまる著作を答えよ。老子の思想を伝えるとされる書物で、『道德経』とも呼ばれる。
- Q72. 次の説明にあてはまる著作を答えよ。荘子の思想を伝える書物で、「逍遙遊」「斉物論」「胡蝶の夢」などを含む。
- Q73. 次の説明にあてはまる著作を答えよ。韓非子の思想を伝える書物で、法・術・勢による統治論が説かれている。
- Q74. 次の説明にあてはまる著作を答えよ。墨子とその学派の思想を伝える書物で、兼愛・非攻などが説かれている。
- Q75. 次の説明にあてはまる著作を答えよ。兵家の孫子が著したとされる兵法書で、戦争の原理を簡潔にまとめた古典。
- Q76. 次の説明にあてはまる著作を答えよ。呂不韋が多くの学者を集めて編ませた、諸学派の説を集めた雑家の代表的書物。
- Q77. 次の説明にあてはまる故事成語を答えよ。『呂氏春秋』の完成にちなみ、価値の高いすぐれた文章や文字をたたえることば。
- Q78. 次の説明にあてはまる故事成語を答えよ。『韓非子』の話に由来し、つじつまの合わないことをいうことば。
- Q79. 次の説明にあてはまる名句を答えよ。『孫子』にある、相手と自分の実情をよく知れば、何度戦っても危険がない、という意味の句。
- Q80. 次の説明にあてはまることばを答えよ。孔子が説いた、自分がされたくないことを人にしてはならない、という教え。

Q81. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。荀子の弟子で、後に法家を大成し『韓非子』を著した人物。

Q82. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。荀子の弟子で、韓非子と同門。秦の始皇帝に仕えて統一を支えた宰相。

Q83. 次の説明にあてはまる出来事を答えよ。秦の始皇帝が、医薬・占い・農業などの実用書を除く書物を焼かせ、方士や儒者ら多数を生き埋めにしたとされる思想弾圧。

Q84. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。焚書坑儒を行い、法家の思想を取り入れて中国を統一した皇帝。

Q85. 次の説明にあてはまる学派を答えよ。儒家を「身内びいきで形式的だ」と批判し、平等の愛である兼愛を説いた学派。

Q86. 次の説明にあてはまる学派を答えよ。孔子・孟子・荀子と受けつがれ、漢代以降に中国の正統な学問・道徳となった学派。

Q87. 次の説明にあてはまる学派を答えよ。「白馬非馬」のような議論を行い、後に「詭弁を弄する」と批判もされた論理重視の学派。

Q88. 次の説明にあてはまる学派を答えよ。陰陽と五行の組み合わせで自然や歴史を説明し、後の暦や占いに影響した学派。

Q89. 次の説明にあてはまることを答えよ。鄒衍が唱えた、五行の循環によって王朝が交替していくとする説。

Q90. 次の説明にあてはまる学派を答えよ。君臣を問わずみずから田を耕すべきだとし、農業を国の根本とした学派。

Q91. 次の説明にあてはまる学派を答えよ。一つの説にかたよらず、諸家の長所を取り入れた、『呂氏春秋』に代表される学派。

Q92. 次の説明にあてはまることを答えよ。「合従」と「連衡」を合わせ、利害に応じて結びついたり離れたりする外交・かけひきを表す四字熟語。

Q93. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。「仁」と「礼」を説き、弟子三千人を教えたと伝えられる、儒家の祖。

Q94. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。秦の孝公に仕え、厳しい法による「変法」で国を強くした法家の政治家。

Q95. 次の説明にあてはまる学派を答えよ。道徳や仁愛ではなく、君主の定めた法と賞罰によって国を治めようとした学派。

Q96. 次の説明にあてはまることばを答えよ。儒家の孟子が説いた四端のうち、「智」のもととなる、善悪を判断する心。

Q97. 次の説明にあてはまることばを答えよ。墨子の説で、「兼愛」とともに掲げられた、侵略戦争に反対する主張。

Q98. 次の説明にあてはまる人物を答えよ。「道」と「無為自然」を説き、争わず控えめに生きることが理想とした、道家の祖とされる人物。

Q99. 次の説明にあてはまる学派を答えよ。儒家と並ぶ二大勢力とされ、規律正しい集団で兼愛・非攻を実践した学派。

Q100. 次の説明にあてはまることばを答えよ。乱世であった春秋・戦国時代に、富国強兵や理想の生き方を求めて多くの思想家・学派が現れたことをまとめて呼ぶ言葉。